

パネルディスカッション

パネルディスカッション 「タイ国と日本の相互理解を目指して」

■司会

東京大学名誉教授
日本学術会議会員
内閣府食品安全委員会専門委員
唐木 英明 氏

■パネリスト

タイ国厚生省 食品医薬品局（FDA）
食品管理部門 ディレクター
Dr. Tipvon Parinyasiri

チュラロンコーン大学
理学部 食品技術学科 准教授
Dr. Suwimon Keeratipibul

日本食品添加物協会
専務理事
高野 靖 氏

消費生活
コンサルタント
森田 満樹 氏

毎日新聞 東京本社
生活家庭部 編集委員
小島 正美 氏



小島 正美 氏 森田 満樹 氏 高野 靖 氏



Dr. Tipvon Parinyasiri Dr. Suwimon Keeratipibul 唐木 英明 氏

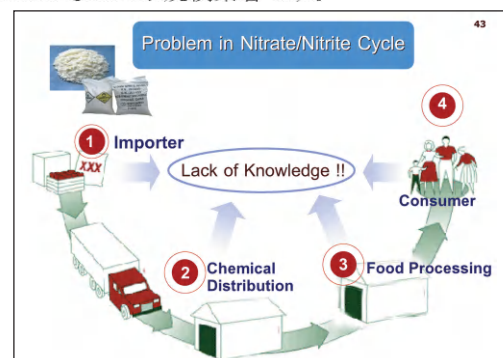
■唐木先生

それでは、これから、パネルディスカッションに移りたいと思います。先ほどTipvon先生からタイでの食品安全を守るシステムを大変ご苦労して構築されたというお話がありました。これは、タイだけではなくて、日本でもその他の国でも食品安全というのは世界的に非常に大きな課題になっている問題です。このパネルディスカッションは其中でも食品添加物というところに焦点をあてて、話をすすめていきたいと思います。

最初に、パネリスト5人の方に10分程度ずつお話をいただきます。そして、その後にディスカッションを始めたいと思います。それでは、最初に先ほどご講演を頂いたTipvon先生から、先ほどはタイの食品安全のシステム、それから食品添加物の問題点についてお話して頂きましたが、引き続き、食品添加物についての問題点、あるいはあらかじめいくつか質問いただいてその中から食品添加物に関係するところをお話しをして頂きたいと思います。よろしくお願いします。

■Dr. Tipvon

質問が多い問題点は、どうすれば製造業者が食品添加物を正しく理解できるのかという点です。タイ国の製造業者の多くは小規模の業者で、食品添加物の問題が多く発生するのもこの小規模業者です。



輸入業者から始まり、小規模業者がそれを購入します。そして、それを加工業者に販売するわけですが、この時には成分の詳細等の記載がないものが売られています。そのため、「オー・ヨー」では食品添加物の詳細の記載をラベルにすることを強制すべきですが、そうすると小規模の加工工場は食品添加物の入手が困難になります。というのは、これらの業者は小さな売店や直売の食品添加

パネルディスカッション

物を購入、使用しているからです。ラベルの偽造表示の問題も出てくるでしょう。そうすると次の問題は、消費者はどうやって安全か安全でないかを見分けることができるのか、という問題になります。消費者や教育機関における、食品添加物、安全性、ADI等についての教育や、独自に硝酸塩／亜硝酸塩を購入、使用している地方の小規模工場においてはppm等を含む知識の教育を行わなければなりません。また、硝酸塩／亜硝酸塩については、花火に用いられている化学品グレードのものもあり、食品に使用されるものと価格が異なるため、これらが食品に用いられることがあり、化学品グレードのものと食品グレードのものをどのように明確に分けるかも重要な問題となっています。これらの問題の解決には少々時間を要します。



■唐木先生

どうもありがとうございました。日本の戦争の前から後にかけても多分同じような状況があったらと思うんですが、食品添加物を使い始めた最初というのはまだ知識が不十分でいろんな混乱が起こるということをお話し頂けたと思います。それでは、続きまして、Suwimon先生から食品安全の立場からその対策の普及状況など食品の衛生管理のお話しをして頂きたいと思います。Suwimon先生、よろしくお願いいたします。